

令和 6(2024)年度 事業報告書

(第 33 期)

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

(設立許可 平成 3 年 12 月 20 日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団

大阪府枚方市招提田近 1 丁目 9 番地

1. 令和6年度 実施事業の概要

本年度は、令和6年2月の理事会ならびに同年3月に開催された評議員会において承認、決定された事業計画に従い、以下の事業を実施した。

1. 一般助成事業（事業管理費を含む実施額 2,822 万円、予算額 2,669 万円）

本年度は、年度計画に従い助成事業の中の研究助成など5つの種目を実施した。これには、昨年度に続き平成21年度より中止していたホソカワ研究奨励賞が含まれる。実施に当たって、本年度は、昨年度より募集スケジュールを約1ヵ月早めたが、それ以外は同じ手順で募集要項を、受付窓口と考えられる大学事務局に直接メールにて配信すると共に、主な粉体関連学協会や助成事業推進サイトなどへのオンラインでの募集を行った。

令和6年4月に助成事業の募集を開始して応募締切日6月28日までに提出された申請書類を基にして、8月8日に選考委員会を開いて審査分担を決めて採点が行われた。その審査結果を事務局にて集計し、連絡会議にて確認の上、選考委員会の推薦案がまとめられ、11月19日の第3回理事会にて受贈者が決定した。また、昨年度と同様に贈呈式が令和7年3月11日に開催された。尚、助成事業での採択案件の決定においては、年度計画に対して200万円多く助成金を配分することになった。

1-1. KONA 賞の授与（褒賞金 100 万円）

KONA 賞については本年度も国内に限定しない候補者の推薦を得るために、KONA 誌の国際的な編集委員会体制を活用して広く世界から募集した。その結果、国内外から6件(6名)の推薦があり、選考委員会で承認された10名(日本人4名、アジア・米国・欧州ブロックからそれぞれ2名)のKONA 賞審査委員による採点結果を基にして選考委員会で選考され、理事会にて承認を得た。その結果、本年度は、米国ノースカロライナ大学の名誉教授である、Professor Anthony J. HICKEY の「Outstanding contributions to aerosol drug delivery systems」の業績に対してKONA 賞の授与が決定された。その贈呈式は、令和7年9月に東京で開催が予定されている第57回粉体工学に関する講演討論会で実施される予定となっている。

1-2. ホソカワ研究奨励賞の授与（褒賞配分額 50 万円）

ホソカワ研究奨励賞は、粉体工学の基礎研究に従事し、優れた業績を挙げつつある、申請時点で年齢40歳以下の若手研究者に授与される。昨年度15年振りに復活したホソカワ研究奨励賞には、5件の応募が有り選考の結果、大阪大学の小澤隆弘助教が第3回理事会において承認された。50万円が褒賞として贈呈され、令和7年3月11日に開催された贈呈式に於いて、受賞講演が行われた。

1-3. 研究助成（助成金採択額 2,100 万円）

本年度の応募数は123件となり、昨年度(91件)より増加となった。その中から、本年度は

年度計画予算(1,900万円)に対して200万円多い採択額が承認された。また昨年度と同様に、採点得点と連動した助成額の傾斜的な決定は行わず、100万円一律とした。これによって研究助成の採択件数は21件となり、研究助成についての、目標採択率20%程度以上に対して、本年度の採択率は17%となった。

1-4. 研究者育成のための援助（援助金採択額 150万円）

本年度は19件の応募があり、これらの中から選考委員会で5件が推薦され、第3回理事会にて承認され、採択者にそれぞれ30万円が授与された。本年度は採択者の中の外国人留学生は、インドネシアからの2名となり採択者全体の40%となった。

1-5. シンポジウム等の開催援助（援助金配分額 200万円）

シンポジウム開催援助については、本年度の申請は2件あり、選考委員会での討議の結果、粉体工学会から申請のあった”The 8th International Conference on the Characterization and Control of Interfaces for High Quality Advanced Materials”(ICCCI2025、2025/7/8～7/11、富士吉田)と、”10th International Conference on Discrete Element Methods”(DEM10、2025/7/1～7/5、姫路)の2件への援助について、第3回理事会において承認され、それぞれに100万円が授与された。

2. 自主開催事業（実施額 479万円、予算額 606万円）

粉体工学に関する講演討論会の開催

第56回粉体工学に関する講演討論会が、令和6年9月3日(火)にグランキューブ大阪にて開催された。本会では、細川理事長の開会挨拶の後、KONA賞の贈呈式が行われ、タイ国チュラロンコン大学名誉教授のProfessor Wiwut TANTHAPANICHAKOONにKONA賞の盾が手渡された。その後、KONA賞受賞講演並びに、「先端製造プロセスを支える粉体技術とその応用」をテーマとして、粉体工学・粉体技術の基礎と応用の観点から5件の講演が行われた。講演会は、昨年の講演討論会における参加者アンケートの結果を反映し、オンラインを使ったハイブリッド形式による開催となり、直前の台風発生にも係わらず、会場で83人、オンラインで157人、合計240人が参加し、昨年度開催した第55回への参加人数とほぼ同じとなった。なお、本講演討論会の企画については、粉体技術談話会（会長 鹿毛浩之 九州工業大学名誉教授）に委託して行われた。

3. 出版事業（実施額 799万円、予算額 864万円）

国際学術誌「KONA Powder and Particle Journal」の発行

本年度は、推薦原稿17編（アジア4編、アメリカ8編、ヨーロッパ5編）および自由投稿1編を併せて18編の論文を掲載したNo.42(2025)（289ページ）を650部印刷し、令和7年1月10日付けで出版して、国内外の読者、大学、図書館などの関係者への寄贈と共に、財団ホームページ（<https://www.kona.or.jp>）に出版の案内を行い、更にWebジャーナルへ掲載した。なお、本誌の編集に際し、入稿・査読は全論文についてオンライン投稿審査シ

システム (Editorial Manager : EM システム) が利用された。論文のオンライン掲載について、J-STAGE の早期公開 (採択された記事を巻・号や開始ページ等が確定する前の段階で速やかに公開) 機能を利用し、印刷出版日より先に、2023/12/28~2024/10/19 の間に順次公開した。また、ヘッダ、見出し、図表番号と抄録等も含めて、フルカラーでの印刷と電子版で出版した。本誌は 2013 年より J-STAGE に掲載が開始され、2014 年 6 月に全てのバックナンバーの掲載が完了しているが、No.42 (2025)の論文、記事についても、令和 7 (2025) 年 2 月 28 日に全文 HTML (XML) および PDF 形式でその掲載を完了した。このサイトでの KONA 誌の 1 日平均利用件数は、加入当時 (2013/12/20) の約 100 件から 1390 件を超え、通算利用件数は 320 万件余りとなった。なお、KONA 誌の 2023 年の学術誌の代表的な評価指数 Impact Factor (JCR) および CiteScore は、それぞれ 4.1 および 8.4 に上昇した。また、JST からの参加要請を受けて、同機構が提供する研究データの共有と利活用を促進するためのリポジトリである J-STAGE Data (<https://jstagedata.jst.go.jp/kona>) に加入し、2021 年 7 月 20 日に正式運用を開始し、現在 25 本の動画やエビデンスデータを公開中である。

さらに、KONA 誌は、世界最大級の各種の商用学術情報データベース (Web of Science, SCOPUS, Ei Compendex, JDream III, EBSCO, Cabells, J-GATE etc.) に収録されているほか、代表的なオープンアクセスジャーナルデータベース (J-STAGE, DOAJ, Google Scholar, CNKI, etc.) にも収録を拡大してきた。さらに、昨年より英国工学技術学会 (IET) 提供のデータベース Inspec、韓国科学技術情報研究所 (KISTI) 提供のデータベース NDSL (National Digital Science Library)、米国大手情報コンテンツおよびテクノロジー企業 ProQuest 社が提供する図書館リソースの検索ディスカバリ・インターフェイス ProQuest にも収録を確認した。

4. 年報の発行 (実施額 112 万円、予算額 115 万円)

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果などを公表するために発行される。年報 No.31(2023)は、令和 5 年度の活動状況報告を中心としたもので、令和 3 年度研究助成成果報告 26 件と令和 4 年度研究者育成のための援助成果報告 10 件を掲載し、令和 6 年 5 月に発行した。なお、当財団の年報は平成 21 年度以降、冊子での発行を取り止め、ホームページでの掲載のみとなっている。平成 28 年度に科学技術振興機構からの支援を受けて当財団の年報が J-STAGE に登載されることになり、平成 29 年に初めて年報 No.23(2015)を掲載し、それ以降これまでに No.12(2004)まで遡ってバックナンバーを掲載している。

II. テロ資金供与等のリスク低減対策

当財団では、2 つの事業において 100 万円以上の海外送金の実績がある。

1 つ目は、一般助成事業として、粉体工学の基礎研究に従事し、かつ優れた研究業績を挙げた研究者への KONA 賞の授与である。この KONA 賞の受賞対象者は国内外を問わないため、海外の研究者に対して副賞として 100 万円を授与することがある。受賞者は、同賞の厳正な選考基準を満たした国際的に著名な研究者であり、その身元は明確でありテロ資金供与等に関与していないことを確認している。

2つ目は、出版事業である国際学術誌『KONA Powder and Particle Journal』の発行において、ドイツとアメリカに編集委員会を設置し、企画・編集を委託しており、その対価として年間150万円の委託料をそれぞれに支払っている。このドイツとアメリカの編集委員会は、粉体工学に関連する分野において著名な学者で構成されており、毎年編集委員会から実績報告を受領し、委託料に見合った活動が行われていることを確認している。

また、海外送金に際しては、テロ資金供与等に関係する口座ではないこと、かつ送金先が正しい口座であることを事前に確認した上で送金を実施し、送金後には送金先において確実に受領されたことを確認している。送金担当者は、海外送金EBサービスを使用して承認者に送金依頼を行い、承認者が内容を確認の上、同サービス上で承認し送金を行っている。

以上